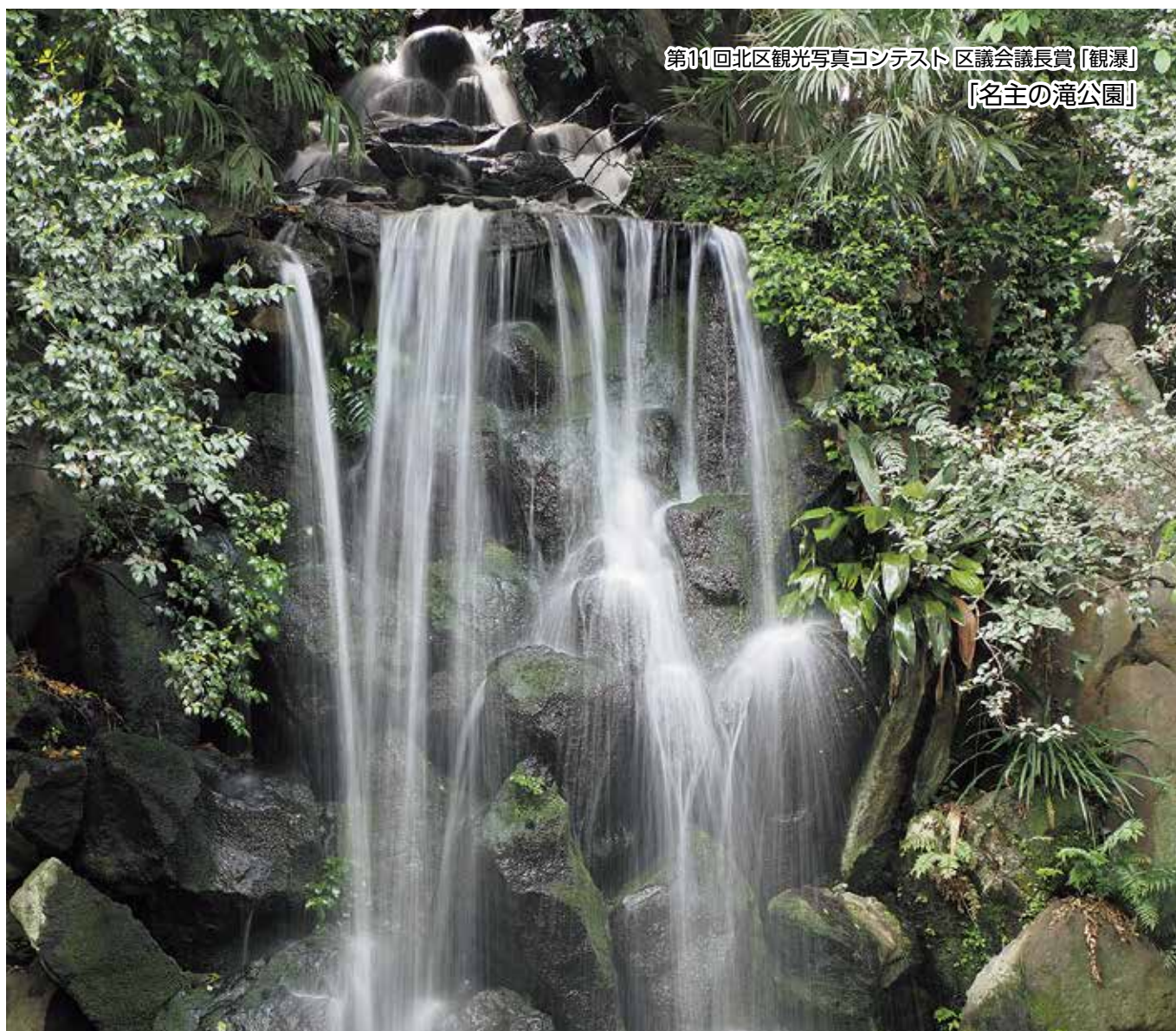


新しい風

No. 125
2022.7.15
Take Free

コミュニティビジネスで北区を活性化する



第11回北区観光写真コンテスト 区議会議長賞「観瀑」
「名主の滝公園」



北区創業
のまち

コミュニティビジネスとは？

コミュニティビジネス（CB）とは、「市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決する事業」の総称です。北区では、暮らしやすい地域の実現や、地域活力の創出を図るために、CBの振興を推進しています。今回の商工通信では、北区でCB事業を展開し、北区コミュニティビジネス創業支援ネットワークのアドバイザーとしても活躍している事業者の皆さんをご紹介します。

北区コミュニティビジネス創業支援ネットワーク
<https://www.tokyokitaku-cbnw.com/>



アドバイザー (CB事業者) からのメッセージ

ママたちの居場所づくり自分なりの道で踏み出そう

子育て中のお母さんが社会とつながり、産前・産後ケアから就労支援まで、縦割りではなく、一人一人への伴走支援をモットーに子育てサロンを開所。どなたでも立ち寄っていただける「ママの居場所」を提供しています。

— 事業を始めた動機を教えてください。

▶まだ子供が小さかったころ、児童館では〇〇ちゃんのママになってしまって、ママのための居場所が少ないと感じていました。「ないものは自分で作ろう！」最初はサークル形式で、公民館や近所のカフェを借りました。月1回だったのが、好評で週1回になり、週3回になり——これなら物件を借りたほうがいいのかもと思い、起業を決意しました。そこから流れに沿っていろいろと広がっていきましたが、すべてサロンに来ているママたちの声のもとになっています。

— これからCBを始める方にアドバイスをお願いします。

▶たとえば、私の職歴では不登校の子供たち向けフリースクールが一番長い職歴です。同様に、だれでもその人なりの通ってきた道があると思います。最初から大きく始めてしまうのではなく、その人なりの道を一步踏み出してみることが、ハードル設定を低く始められるポイントだと思います。もしコミュニティビジネスを始めるのであれば、人脈や出会いを大事にしてくださいね。



株式会社ほっこりのプラス

NPO法人 子育てママ応援塾 ほっこり〜の
株式会社ほっこりのプラス 代表取締役：内海千津子
十条仲原1-10-3
<https://www.hokkori-no-plus.com/>

おんぶや抱っこのスタッフが活躍

5月に「街のリビングルーム」がオープンした、いろむすびcafeを運営するNPO法人彩結び。カフェ以外にもレンタルスペースの管理やイベントの開催などさまざまな事業を展開しています。共同代表の渡邊麻純氏にお話しを伺いました。

— CBを始めたきっかけを教えてください。

▶法人化前はサークルのようなかたちで3、4年活動していました。そんな中で、コトニア赤羽さんがリニューアルする際に、コミュニティカフェをやってみないかという話をいただき、そのタイミングで法人化しました。

— 3名で立ち上げて、7年間で50名近くまでスタッフが増えたそうですね。

▶スタッフは子育て中のママ層が圧倒的に多くて、8割くらいを占めています。子供の小さいママたちは、一人が子供の面倒を見て一人が業務をするなど、みんな補い合っているんです。もっと小さな子の場合は、おんぶや抱っこで仕事しています。おんぶや抱っこで働いているスタッフを見て「こんな社会とのかかわり方があるんだ」と、お客様からスタッフになる方も多かったです。

— これからCBを始める方にアドバイスをお願いします。

▶コミュニティビジネスは身近な地域の方にどう向き合っていくかです。こんなことがあったらいいなと考えたら、臆せずやってみることで開ける場合があると思います。



特定非営利活動法人 彩結び(いろむすび)

共同代表・理事：渡邊麻純 (左)
共同代表・理事：佐野愛子 (右)
中十条4-17-1コトニア赤羽
<https://www.npo-iromusubi.com/>
<https://www.iromusubi.com/>

エリアリノベーションでまちづくり

シェアキッチンなどのスペース運営と、私道やお寺を使った「地域マルシェ」の開催などコンテンツ運営も提供する「岩淵家守舎」。リノベーションだけでなく、エリアリノベーションで地域の活性化に取り組んでいます。

— エリアリノベーションとはどのようなものですか？

▶単純なリノベーションではなく、地域へ波及効果のあるリノベーションがエリアリノベーションです。たとえば、僕らの物件にはコーヒー屋さんと自転車屋さんがセットで入っています。飲食店さんだけだと半径500m以内の人たちしか利用しないけれど、自転車屋さんが加わると、河川敷のサイクリングロードを通して遠方から人が流れてきます。そうすれば「銭湯に入っていくこう」「赤羽を探していくこう」と、どんどんエリアが広がっていくんです。

— これからCBを始める方にアドバイスをお願いします。

▶僕たちの最初の事業は、大家さんと共同でのスタートだったので、スモールスタートで徐々に広がっていった感じです。だから借入れなどはせず自己資金だけで運用できました。コミュニティビジネスは大きな利益を上げるのが難しいビジネスなので、できるだけローコストでスタートして、できる限り補助金など以外の収益構造を考えてほしいと思っています。



株式会社岩淵家守舎(いわぶちやもりしゃ)

代表取締役：織戸龍也
岩淵町15-13
<https://www.cotoiro.com/>

北区では「東京北区を創業であふれるまちに」を掲げ、コミュニティビジネスによる起業を応援しています。ここ数年で急激に注目が集まっているコミュニティビジネス。「コミュニティビジネスとは?」「どうやって始めたらいの?」など、お悩みの方もいるかもしれません。そこで今回「新しい風」では区内で活躍している先輩の起業家たち（CB事業者）6組に、創業のきっかけや、これからCBを始める人へのアドバイスをいただきました。

中高年のセカンドキャリアを応援

ご自宅の空いたスペースを利用して、ご夫婦の趣味である読書のイベントや読書会を発端に、出版コンサルティング、ストレッチ教室、リコーダーの教室や講演会、さまざまなイベントなど、多彩な活動を展開しています。

— CBを始めたきっかけを教えてください

▶青介氏：30年勤めていた出版社を辞めて、何をしようか考えたときに、家の2階を使って、僕なら出版コンサルティング、妻はストレッチのサロンができるのではないかと始めてみました。

— これからCBを始める方にアドバイスををお願いします。

▶青介氏：弊スペースに来てくださる40代50代の方の多くが、自分の関心事を後回しにする人生を歩んできています。私もそうでした。でも、今や「人生100年時代」です。組織から離れた後の人生も見据え、ミドルからは本当に好きなことを模索する道を探ってみてもいいのではないのでしょうか。

▶華代子氏：とにかく行動を起こしてみることに。私たちは勇気を出して、北区のビジネスプランコンテストに出場しました。出てみると、人との出会いや学びがあって、刺激を受け、その結果、今ここにいるというのが実感です。

▶青介氏：私は長年会社勤めだったので、地域に知り合いがいまませんでした。でも、しかのいえを始めたことで知り合いが増え、僕らがやりたいことを発信すると手伝ってくれる人も増えました。方向性をもって踏み出せば、事業の支えとなる人の「つながり」ができると感じています。



暮らす Laboratory しかのいえ

管理人：鹿野青介、鹿野華代子
上十条2-9-6
<https://shikanoie.com/>

基礎の積み上げが集客につながる

オーガニックのオリーブオイルの輸入販売を皮切りに、実家の空き部屋を地域資源として活用するため民泊を開業。「茶の間Lab」で、みんなが集まれるスペースを開放するなど、コミュニティビジネスを展開しています。

— 事業の内容をおしえていただけますか。

▶新型コロナウイルスまん延の前は、主に外国人向けの民泊を行っていました。茶の間Labとしては、昭和レトロな撮影スタジオとして活用したり、イベントスペースとしてイベントの開催やアーティストさんにご利用いただいたりもしています。

— イベントなどは地域の方が多いのでしょうか。

▶地域の方はもちろんですが、東京を縦断して遠方からも来てくださいます。イベントの基礎をしっかりと組み立てることでその目的が明確になり、皆さまに足を運んでいただけるイベントになるのではないかと。そして、遠方の方と交流することで私たちの視点も変わり地域の活性化につながるのだと思います。

— これからCBを始める方にアドバイスををお願いします。

▶渋沢栄一の言葉に、「自ら箸を取れ」という言葉があります。自分から箸を持たないと、誰も取ってくれません。自ら動き出すことが今一番必要とされていることだと思います。「基」となるものをしっかり積み重ねて、自ら行動していくことが大事なのではないのでしょうか。



株式会社ぷらっとマルシェ

代表取締役：椿 克美
志茂5-16-15
<https://pmc.tokyo.jp/>

御用聞き事業でコミュニティビジネス

主に医療保険・介護保険を使用した、高齢者や障害者向けの在宅サービスを提供。高齢者や障害者の方向け、在宅の鍼灸治療院を経営する傍ら、「御用聞き事業」「便利屋事業」を提供しています。

— 「御用聞き事業」と「便利屋業」はどう違うのでしょうか？

▶たとえばお風呂を洗うときに、ご自宅に置いてある洗剤やスポンジを使う場合は「御用聞き事業」、専用の高度な道具を持ち込んで洗浄する場合は「便利屋業」と考えていただくと分かりやすいと思います。「御用聞き事業」は高齢者と障害者の方へのサービスで、区内であれば10分500円からです。

— 「御用聞き事業」にはどのような依頼が来るのでしょうか？

▶変わったものでは、ケアマネジャーからの相談で「一人暮らしの高齢者のお宅に鳩が巣を作ってしまう困っている」というのがありました。親族同意の下、ペランダの清掃やネットの設置、都の環境局に許可を取り卵の採取まで行いました。

— これからCBを始める方にアドバイスををお願いします。

▶お金目的だとお金目的の人しかついてこない気がするんです。かといって崇高な理念だけでも成り立ちません。人それぞれ「やりたいこと」と「できること」は違います。「やりたいこと」と「できること」を考慮しながら進めていくといいと思います。



株式会社さくら総合福祉

代表取締役：張原正義
岸町1-6-19
<https://sakura-sf.com>

SDGsってなんだろう

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて、全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴール(下図)と169のターゲットから構成されています。

SDGsの特徴

SDGsの前身のMDGs (Millennium Development Goals: ミレニアム開発目標) は、主として開発途上国向けの目標でしたが、SDGsは先進国も含め、全ての国が取り組むべき普遍的 (ユニバーサル) な目標となっています。

しかしながら、これらの目標は、各国政府による取り組みだけでは達成が困難です。企業や地方自治体、アカデミアや市民社会、そして一人ひとりに至るまで、すべてのひとの行動が求められている点がSDGsの大きな特徴です。

まさにSDGs達成のカギは、一人ひとりの行動に委ねられているのです。

北区の取り組み

北区では、区内事業者などによるSDGsへの取り組みの「見える化」および、今後SDGsの取り組みを検討している区内事業者に対して、広くSDGsの普及と推進を図り、持続可能な地域経済の実現を目指しています。

令和4年度は、北区版「SDGs登録・認証制度」の令和5年度の実施に向け、制度構築の調査・検討に着手します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



店主が講師のまちゼミ開催

今年もリアル講座とオンライン講座を予定しています。

開催期間：8月1日～9月15日

詳しくは「北区まちゼミ」で検索してください。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって急きょ変更になる場合がございます。

問い合わせ先：

北区まちゼミ実行委員会事務局 (ジュエリーこまつ)

☎03-5993-2256

10:00～19:00 (日曜定休)



発行：北区地域振興部産業振興課
〒114-8503

北区王子1-11-1 北とぴあ11階

Tel : 03-5390-1234

Fax : 03-5390-1141

<https://www.city.kita.tokyo.jp/>

制作：サンケイ総合印刷株式会社

No.125 令和4年7月15日号

(年3回発行 7月/11月/3月)

刊行物登録番号：4-2-020

